

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階ユニット)

事業所番号	2791300102		
法人名	社会福祉法人 白恵会		
事業所名	グループホーム恵の家		
所在地	大阪府貝塚市窪田166-6		
自己評価作成日	令和4年4月28日	評価結果市町村受理日	令和4年7月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るい雰囲気大切に大家族として楽しく安全に過ごして頂き、御家族様にも安心して頂けるよう寄り添う介護を行っている。コロナ禍において入居者様の外出、面会の制限がある為、合同でのレクリエーションやホーム横で外気浴しながらの昼食、花壇の水やり、カラオケや歌体操、職員と一緒に洗濯物を干したりたたんだりと楽しんでいただきながら入居者様へ不安やストレスを与えないように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人・白恵会の1つにグループホーム恵の家があり、他に居宅介護支援事業・訪問介護・福祉用具・訪問看護・有料老人ホーム・デイサービスと関連事業を運営している。創設時からの5つの基本理念があり、明るく大家族で楽しく生活し、自分らしく生き近隣の方々と地域の行事や活動に参加出来ることを掲げている。介護福祉士の資格取得が取りやすい環境にあり、喀痰吸引や経鼻経管など資格を持つ職員が多く離職率も低く働きやすい職場になっている。家族・利用者からも安心して暮らせる体制を整えている。コロナ禍の中、外出が難しく他の施設の休日を利用して車を借り、車窓からのドライブを楽しむ事ができた。管理者・職員は介護職が大好きという環境の中、利用者の笑顔に繋がっているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

hikuku		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創設時の理念を基本理念と掲げ、新たに介護理念として入居者の状況に合わせたものを作り直し実行していき。今後も見直しを行い実践に活かしていく。	職員と共に考えた5つの基本理念があり、入社時や毎月の会議時に理念を共有・確認しながら実践に取り組んでいる。また施設案内パンフレットに5つの理念を掲載し家族や地域の方々に働きかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、防災訓練や行事等への参加、ご協力の呼びかけができず毎月一回の美化活動で少人数の入居者様と職員でホーム周りの掃除をしている。	従来は、地域の行事への参加や各種ボランティア活動の受け入れを行っていたがコロナ禍で中止している。月1回、町内の美化活動で利用者と職員がホームの周りを掃除して、地域との繋がりを深めている。近隣の住民に高齢者が多く、本人や家族からの相談があり、地域との交流を深めたいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られた地域の方へ、どのような手続きをしたら良いかグループホームでの生活や認知症対応型などの説明をし理解して頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に(2ヶ月に一度)開催し、町会長、民生委員、地域包括、市職員、家族、入居者にて話し合い、意見を聞き運営に反映できるように努力している。	2か月に1回の開催としている。コロナ禍のため文書での開催となっていたが今回(5月)から役所の職員・地域包括支援センターから各2名、職員の参加で開催することができた。会議では利用者の様子やホーム内の行事、今後の活動予定を報告している。議事録は、事務所にて利用料金の支払に訪問される家族へ手渡しをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や福祉関係の職員の方にその都度、相談に乗っていただいている。(R2.5~GH部会は一度も開催されていない。)	介護高齢課に事業所の取り組み内容を報告したり、日常業務上での相談や助言を得ている。生活保護課の窓口では、公的扶助受給者の書類手続きを行っている。2か月に1回役所主催のグループホーム部会があったがコロナ禍のために開催していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、玄関などの施錠を行わず、所内にて身体拘束についての研修を行っている。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し3ヶ月に1回委員会と、年2回の研修会を開き、内容について正しく理解しているか確認している。リビング内にあるカーブミラーを利用して入居者ひとり一人を把握して玄関の鍵はかけず拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修への参加、所内での勉強会など行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されてる方はいないが権利擁護の研修、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定時には書類にて説明を行い、解らないところは質問してもらうなどし、納得していただくまで話をする。退居時にも相談に乗り支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、家族様に意見を出しやすい雰囲気を作り、月一回のお支払い時等にご意見やご要望を聞く機会を設けている。入居者様の状態等はその都度電話で報告を行っている。また、エレベーター横には投書箱を設置している。	玄関入り口に意見箱を設置しているが、面会時や電話等で意見や要望を聞くことが多い。利用者からは入浴時や何気ない日常会話から要望を聞くように心掛けている。	月1回、「めぐみ新聞」を出して利用者の日常生活を取り上げ喜ばれているので、さらに毎日の生活の様子、暮らしのエピソードなども毎月一言でもよいので職員が感じたこと、気が付いたことを取り入れ家族へ提供を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を行い、職員一人につき一つは議題をあげるように声を掛けている。年に数回、職員と一対一の面談を行い意見を聞く機会を設けている。	月1回の職員会議を行い、職員から出された議題を取り上げ、それについてどうしたらよいか色々な意見を出し合い、1週間のお試し期間を設けた後、検証を行って事業所運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的には話し合い意見を聞いている。自己評価を行ってもらい、今後の目標を立てて仕事に取り組むようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内研修に参加してもらいスキルアップに努めている。所外研修は参加出来ない時は出前研修をして頂き参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会が令和2年5月より一度も開催されていない為、電話で連絡をとるなど交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問も行い、不安や要望を聞き寄り添う介護、支援を行いなじみの関係をつくる努力をしている。傾聴することの大切さを職員は理解し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりにも努めている	入居前からできる限り、家族の話も傾聴し相談に乗り信頼関係をつくれるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを見極め支援計画を立てサービスを行い、可能な限り対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように暖かく、話のしやすい姿勢を大切にし、職員が利用者に頼ったり冗談を言ったり、何かする時は相談するなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報の共有を行い、相談し支援を行っている。本人、家族、職員との連携を取ることで、より良い関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は友人との面会や外出が出来ない為、家族様へ写真を提供して頂いたり電話で連絡が取れるよう支援している。	以前の住居の知人やこれまでの馴染みの人との関係を大切にしているが、面会や外出ができていない。現在は、馴染みの人からの電話の取次ぎや、月1回の利用料金の支払い時に、家族と窓越し面会で会話をしており、家族に喜んでもらっている。孫との交流がある利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人が隣りになるような席を配慮している。時に職員がより良いかかわりが出来るよう懸け橋になり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談の電話や来設を待っていることを伝え関係を大切にしている。近隣の方の為に顔合を見かける事があり、お声をかけさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在は外出が出来ない為、誕生月に食べたい物を聞き提供している。本人の意思表示が困難な場合は家族に聞き取りを行うなど必要な支援を行っている。	意見や要望を表す人利用者が少なく、コミュニケーションをとることが難しい場合は、家族に聞き取りを行い思いや意向を聞き出すよう努めている。利用者本人の好きな食べ物を把握し、誕生月に用意して喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅に訪問しどのような生活をしてきたかなど把握に努めている。新しく得た情報は随時追加し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆で会議にて話し合い、支援計画に出来ることなど組み込み残存能力を使えるように支援している。出勤時には記録をかくにん申し送りノートを活用して共有もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員と話し合い日々の個別ケアを実践している。個人ファイルは整理し、常に見やすい状態にしている。課題や検討が必要な時にはカンファレンスを行い現状に即した支援が出来るようにしている。	計画担当者は、家族の意向と心身の状況・希望及びその置かれる環境を踏まえ、管理日誌・施設サービス計画書から医師・看護師の意見を取りいれている。短期目標3ヶ月長期目標6ヶ月の現状に即した計画作成を行い、身体状態変化時はその都度対応している。計画書は家族に説明して了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度変わったところなど申し送りや連絡帳にて情報共有し現状に即した介護を行えるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化を見逃さず、その都度状況に応じて入居者、家族、職員にて話し合い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の趣味など今までしていたことを続けられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族の希望に沿いかかりつけ医にて受診してもらっている。かかりつけ医との関係も受診時付き添ったり、手紙を書くなどし関係づくりをしている。	入居時に利用者・家族と受診について話し合い、現在は全員が協力医をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療があり、歯科医は毎週金曜日に希望者が治療を受けている。専門医(泌尿器科など)は家族の同行を基本にしているが、職員に看護師を配置し、訪問看護師や医師との連絡体制が整っていることは安心感に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を看護師に伝え、わからないことは聞き、適切な看護を受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行っている。現在は面会が出来ない為、入院中の様子や状態を電話にて看護師などに聞き関係作りに努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の指針にて説明を行っているが、看取りが必要となった場合には改めて本人様や家族様の気持ちを伺う。様子が変わるたびに家族様や医師、看護などと相談し情報を共有し支援を行っている。	入居時に利用者・家族に「看取りケア業務指針及びマニュアル」を説明し、同意を得ている。利用者が重度化した場合は、利用者、家族、医師が話し合い、終末期支援について医師から説明し「終末期ケア計画」を作成し、看護師と職員が連携して対応している。近年は看取りの要望が多く、前年度は7件の看取り例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導のもと職員全員が行えるように努力している。勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、地震・津波避難訓練を年2回行っている。毎月の会議には緊急時の対応を話し合っている。緊急時マニュアルを作成しいつでも職員が見れるようにしている。	「防災対応マニュアル」を作成し、避難訓練を年2回(内1回は夜間想定)消防署の立ち合いと利用者が参加して実施している。また、毎月自主的に消防訓練を行いマニュアルの周知や避難訓練後の反省と対策、消火器の点検等を行っている。BCP(業務継続計画)の作成に向け研修会を予定しており、訓練時の住民参加を継続して要請している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声かけを心がけている。又、接遇の勉強会も行っている。	年2回、接遇及びプライバシー保護に関する研修を開催しており、トイレ誘導や入浴の際には人格を尊重し、ため口にならない声掛けに心掛けている。入居時に、利用者が呼ばれた名前を把握し日常に活かすことにより、職員との関係性を持てるように努めている。管理者は不適切な言動は都度指導し、毎月の会議で話し合い改善に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを話せるまで待ち、自ら希望を表せるよう声かけしている。日常会話からも読み取れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にし支援を行い、希望を聞くよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度時に服を選んでもらったり、その人にあったオシャレや身だしなみが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合うように食事を提供し、美しく楽しく食事が出来るように支援している。行事の献立も工夫し季節を感じられる食事を心掛けている。	朝食と昼食は業者から献立表と食材が運ばれ職員が調理している。夕食は別業者からチルド食品が運ばれ湯煎して提供している。コロナ禍で利用者の配膳などの参加や外食レクはしていないが、利用者と一緒に弁当を作り事業所周辺で食べたり、デリバリーを活用し好きな食べもの(寿司、マクド、ハンバーグ)の購入などの工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を確保できるように支援し、状態に応じた介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来るところまで自らしてもらい不足分を介助するようにしている。必要な方は訪問歯科にてケアを行ってもらっている。医師よりアドバイスも受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りパンツをはいてもらい、トイレにて排泄が行えるように支援している。日中はパンツ(紙パンツ)を使用しトイレにて排泄をしている。また、排泄パターンを把握し声掛け、誘導など行い支援している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声掛けと誘導に心掛けている。夜間は、安眠を重視し、パッド使用や簡易トイレを利用する利用者があるが、利用者が目を覚ました時や、3時間毎の巡回時にトイレへの誘導を促している。結果介護消耗品の負担も軽くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、その都度個々に応じた予防を行っている。又、それでも出ない方は医師の処方した薬を看護師に出してもらい服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は各日で行っているが希望に沿って時間、日にちを変更している。ゆったりと楽しんでもらえるよう努めている。	入浴は週3回浴槽に入ることを基本にしているが、利用者の要望や衛生面を考慮し柔軟に対応している。入浴中は、湯加減や思い出話などを聞くように心掛け、季節湯(しょうぶ湯、ゆず湯)や、好みの入浴剤を入れて楽しむ利用者もいる。また、入浴後に好きな飲み物を提供するなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動し夜間睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師への相談や連携を取り、処方箋を職員で情報共有し変化など気づけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や気分転換で散歩したり洗濯物干しやたみ等のお手伝いなど役割や楽しみ、気分転換出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、暖かい時はレクリエーションで手作りのお弁当を外で食べたり、天気の良いにはおやつを外で食べたり楽しんでもらえるよう努めている。	以前は、水間寺や岸和田城の夜店に外出し楽しんでたが自粛していることから、現在は、車で外出して車窓から景色を眺めたり、日曜日に事業所周辺の散歩などにより外出支援をしている。コロナ禍で外出が減っていることから、室内でユーチューブを活用し、軽い体操をするなど体力維持と機能低下防止に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のおこずかいを預かっており何か欲しいものがあれば、いつでも買い物出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて欲しいと要望があればホームの電話を利用してかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはゆったり座れるソファを置き冬場はこたつにして皆で暖を取り話せる空間をつくっている。季節にあった飾り付けをし季節感を感じてもらえるようにしている。又、飾り付け等が生活の障害(転倒する原因)にならないように工夫して行っている。	リビング兼食堂のホールは、大型テレビを囲む形で、ゆったりと座れるソファや椅子が置かれ寛げる空間になっている。利用者は、大型テレビとユーチューブをつなぎ、懐メロと一緒に歌ったり、軽い体操をしながら楽しんでいる。空気清浄機の設置や窓を開けて換気対策をし、死角になる場所にはカーブミラーを設置し利用者の安全に心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所などお互いが嫌悪感を抱かないように工夫し座ってもらい、ゆっくり過ごしたり、楽しくお話できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様へも協力していただき、自宅からなじみの物を持ってきてもらい、自宅にて過ごしていたように生活してもらえるように努めている。	居室は畳敷きで、障子窓がある和風の内装になっている。収納ダンス、壁掛けハンガー、布団が備え付けで、利用者・家族の要望でベッドを入れている利用者もいる。居室にはテレビや物置台が持ち込まれているが、日用品の殆どは収納ダンスに収められており、室内は整理・整頓が行き届いた広い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはわかりやすいように掲げ、各居室にはそれぞれの表札をつけ(家族、本人承諾のもと)自らトイレへ、居室へなど行けるようにしている。		